

ミシン糸を使ったヒヨドリ対策技術

2016.12.1

南予地方局西予農業指導班

担当係長 宮崎 功

ヒヨドリの被害状況



ヒヨドリの被害状況



ヒヨドリの被害状況



ヒヨドリの 被害状況



マシン糸を使ったヒヨドリ対策技術とは

- マシン糸を柑橘樹体に直接巻き付け、ヒヨドリの食害を防止するもの。(三重県農業研究所で取り組んできた対策技術)
- 実証は西予市三瓶町において、南柑橘20号の園で行っている。
- 糸の設置は10月27日に行い、現在継続中。

A photograph of an orchard with several orange trees in the foreground, heavily laden with ripe, bright orange fruit. The trees are supported by a trellis system. In the background, there is a dense forest of tall, green trees under a clear blue sky. A blue speech bubble with a white border is positioned in the upper right corner, containing the text 'ヒヨドリが生息' (Hijodori lives here).

ヒヨドリが生息

実証圃場



ミシン糸を張った状況

間隔20cm程度





ミシン糸を張った状況（黒糸）

張っているの
かわからない。



ミシン糸を張った状況（黒糸）

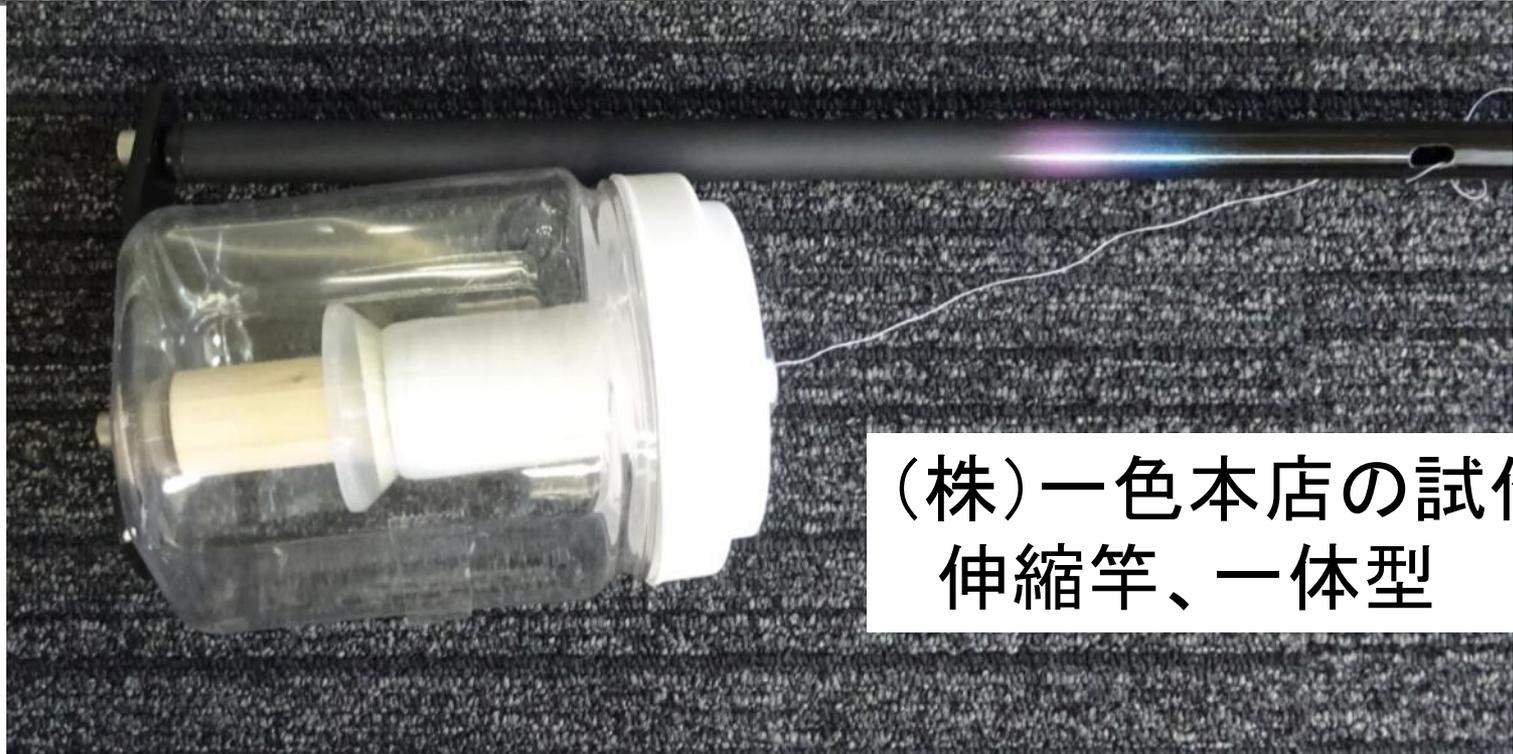
作業道具



塩ビパイプ(1m、18mm)
ペットボトル
ミシン糸 5000m



作業道具



(株)一色本店の試作機
伸縮竿、一体型

糸の設置



作業手順

- 糸の先を適当に枝に結び付ける。
- 竿先を振って糸をクモの巣のように張り巡らせる。 ※反転時は枝に巻き付ける。
- 上部、下部にも張る。
- 末端は適当に枝に結ぶか巻き付けて切る。
- 1樹あたり5分程度。

糸の回収 ※手袋を着用



課題



課題

作業面

- 樹間が狭いところや狭い段畑では、張りにくく、また樹に糸が絡まりやすい。
- 樹と樹の間隔が狭い場合は、2以上の樹をまとめて糸を張ってもよいが、農作業への影響がある。(収穫、防除等)
- 樹高が高い場合や傾斜地では上部が張りにくい。

課題

効果面

- 周辺の早生みかんには被害が散見されるが、実証樹と対照樹には被害が出ておらず、効果が不明。南柑20号ではまだ被害確認できていない。(11/18時点)

カメラをつけてみた。



カラスの食害の様子



ほかの対策例(テグス)



ほかの対策例(テグス)







横からの侵入には漁網を活用。天はテグス。

漁網の支柱はモノ
レールの支柱を活用。



テグスでの取り組み例の内容

- 単価の高い中晩柑で設置。
- 袋かけは必須。袋掛けだけより被害は減る。
- テグスは幼木のうちのほうが張りやすい。
- テグスは張りっぱなし、漁網はシーズンに入ると設置。
- テグスは黒が主体だが、白も少し入れて鳥の衝突を回避。
- 間隔は広いところで1m程度(均一ではない)

まとめ

まだ、効果が確認できていませんが…。

- 作業的に圃場単位に設置するのは困難。
- 補完的や応急的に使えば有効と思われる。
防鳥ネットやテグス、袋かけとの組み合わせ。
防鳥ネットやテグス、袋かけしない、できないところ。
被害がでた樹から設置する。 等